

H2 2.1 0.2 1 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成 22 年 10 月 21 日（木） 14 時 00 分～17 時 30 分

議事概要：

表 H2 2.1 0.2 1 設楽ダム魚類検討会の議事概要

| 議事項目                    | 議事内容  | 報告事項   | 委員の主な意見   | 意見に対する回答   |
|-------------------------|---|--|---|--|
| 1.魚類検討会の経緯について          | ・魚類検討会の経緯について報告した。                                  | ・特になし  | ・特になし   | ・特になし  |
| 2.野外実験について              | ・飼育・繁殖結果について報告した。                                   | ・今年度、繁殖成功には至らなかった。<br>・今後の飼育・繁殖に向けた対応方針(案)を提案した。                       | ・掛け流しで改善しないのであれば、循環式で行うということで掛け流しをする必要はない。  | ・事務局：温度管理、水質管理が容易というメリットがある。また、これまでの繁殖も掛け流しで行われた。これらのことから、今後も掛け流しを一部残して検討を継続したい。 |
|                         |   |  | ・飼育に関しては、飼育個体のコンディションは回復しているということによりか。  | ・事務局：回復不能なレベル以外は回復すると考える。  |
|                         |   |  | ・飼育水に地下水を用いていることに問題があるのではないか。   | ・事務局：溶存酸素量が低い。その状態で細菌に関連した問題が生じている可能性もあるので、かけ流しを継続する場合はそれらの改善を検討したい。             |
|                         |   |  | ・飼育・繁殖における今後の対応方針(案)について、色々挙げて頂いたが、来年以降どのように決定、実現していくか。                                 | ・事務局：実施可能なものから進めていく。その他検討課題項目については、個別項目ごとに対応し、次回検討会で提案する。                        |
| ・放流実験のモニタリング結果について報告した。 | ・6月に2歳魚1個体の生存が確認されたが、9月では確認されなかった。<br>・実験淵の環境が変化した。 | ・特になし  | ・特になし   |  |
| ・今年度の放流実験の実施について協議した。   | ・放流個体のコンディション、実験淵の環境変化等により、今年の秋放流は見送ることを提案した。       | ・これまでの野外実験で、個体の状態が良くないものを放流していたことから、結果の評価ができない。現状では少なくとも来年の春まで待つべきである。 | ・事務局：秋放流は見送ることとする。放流実験を実施するなら3月放流を想定しているが、繁殖期直前に放すことも考えている。                             |  |
|                         |   | ・放流実験について、放流個体の問題はどうか考えているか。定着の事を考えると、近親交配は無視するのか。                     | ・事務局：近親交配は極力避けて実施したい。   |  |
|                         |   | ・来年3月の放流だと支川、実験淵以外の淵は間に合わないだろう。実験淵での実験を止める根拠がはっきりしているのか。               | ・事務局：実験淵での実験は継続していく。ただし、実験淵がある場所は、環境変化が大きいことが分かってきた。上流や支川は安定していることから、支川等に追加実施したいと考えている。 |  |

| 議事項目                | 議事内容                                     | 報告事項   | 委員の主な意見   | 意見に対する回答  |
|---------------------|--|--|---|---|
| 3.人工水路実験について        | ・隠れ家実験の結果解析について検討結果を報告した。                | ・ネコギギにとって暗さが重要であることが分かった。  | ・特になし   | ・特になし   |
|                     | ・野外投入に向けた方針(案)を報告した。                     | ・野外での耐久性等を考慮しフトン籠で覆うことを提案した。<br>・暗さを考慮し遮光シートの設置を提案した。<br>・設置場所の提案を行った。 | ・今回の実験結果を踏まえ、野外投入に向けて進めてもらうことで良い。ただし、エコアップに関しては、実際に生息する淵に、一時的でよいので一度入れてみてはどうか。<br>・エコアップというが、工事のない箇所に投入できるのか。 | ・事務局：今後、実験的な施工も含めて施工計画を検討していきたい。<br>・事務局：今までも、流下阻害にならない程度で本川筋に入れている。      |
| 4.支川のポテンシャルについて     | ・支川で底生魚が少ない要因を検討した。<br>・今後の対応方針(案)を提案した。 | ・底生魚とネコギギの関連性がみられなかった。<br>・実験的な放流を実施することを提案した。                         | ・底生魚が少ない傾向があるが、大きな問題はないとしている。やや苦しい論理だと思う。何か他に注意すべき点はないか。今ある情報からどのように無視できるのか、または評価できるのか。                       | ・事務局：無視とか評価はできない。確かに攪乱による可能性があるが、不明な点も多いので、実験的に放流してそれが何かを確かめたいと考えている。     |
|                     |  |  | ・放流実験に際しては、短期的に結果が得られても、長期的にみると失敗したというのは避けたい。長期的な視点を組み入れることが必要である。  | ・事務局：間隙水の動き等を調べ、カワヨシノボリの空間変異と間隙水の動きをチェックするのが良い。ただ、時間的な余裕もないので、並列に進めていきたい。 |
|                     |  |  | ・支川の過去からの予測はできないのか。   | ・事務局：予測は難しいが、過去から何が起きたかの整理はできると考えられる。                                     |
| 5.モニタリング調査結果について    | ・今年度実施したモニタリング調査結果を報告した。                 | ・A、E 集団で個体数が増加した。<br>・B、D、F 集団で個体数が減少した。<br>・C 集団は確認されなかった。            | ・特になし   | ・特になし   |
| 6.今後の調査・検討計画(案)について | ・今後の調査・検討計画(案)について報告した。                  | ・ネコギギ保全に向けた対応方針を提案した。  | ・特になし   | ・特になし   |
| 7.その他               | ・豊川上流域の支川等について、河川工事状況を報告した。              | ・豊川上流域の支川で実施予定の河川工事に対し保全対策の提案を行った。                                     | ・他県等でネコギギ対策事例積み重なっていると思う。それらの事例の成否をまとめるか。   | ・事務局：どこで何を実施したかというのは集積しているが、成功した、失敗したという観点で整理はしていないので、今後整理したい。            |
|                     |  |  | ・施工に際しては、淵と空隙ができていれば良いので、施工後は、淵と空隙の維持確認だけでも良いので、モニタリングすることが必要である。   | ・事務局：工事の施工後には、モニタリングを実施していく。  |